

會 報

第 9 号



公益社団法人 神戸海難防止研究会

THE KOBE MARINE CASUALTY PREVENTION INSTITUTE

表紙写真

徳島小松島港

徳島県 県土整備部 提供

目 次

第19回 月 例 会 概 要

- (1) 事業経過報告等..... 1
- (2) 講演「船舶津波災害の減災対策について」
神戸大学
名誉教授 久保雅義氏

第20回 月 例 会 概 要

- (1) 事業経過報告等..... 12
- (2) 講演「海上保安庁の海難救助体制について」
第五管区海上保安本部 警備救難部救難課
課長補佐 平野 智氏

事 業 報 告

- 阪神港（神戸区）大型客船の入出港に関する安全性の検証委員会ビジュアル式操船シミュレータ実験..... 27
- 平成26年度第1回船積危険品研究委員会..... 29
- LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会夜間現地調査... 35
- LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会ビジュアル式操船シミュレータ実験Ⅱ..... 37
- 平成26年度第2回船積危険品研究委員会..... 40
- 平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議..... 42
- 阪神港（神戸区）大型客船入出港に関する安全性の検証第2回委員会..... 51
- 平成26年度第3回船積危険品研究委員会..... 53
- LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会第3回検討部会... 55

会 務 報 告

第19回業務運営会議	59
第20回業務運営会議	60
第7回理事会	61
第3回通常総会	64
第8回理事会	68
事務日誌抄	71
お知らせ	72

第19回 月例会 概要

- 1 日 時 平成26年4月24日(木)15:00～16:30
- 2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
- 3 出 席 者 50名
- 4 概 要

(1) 事業経過報告等

山本常務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講演

神戸大学 名誉教授 久保 雅義 氏により「船舶津波災害の減災対策について」と題し、講演が行われた。

船舶津波災害の減災対策について

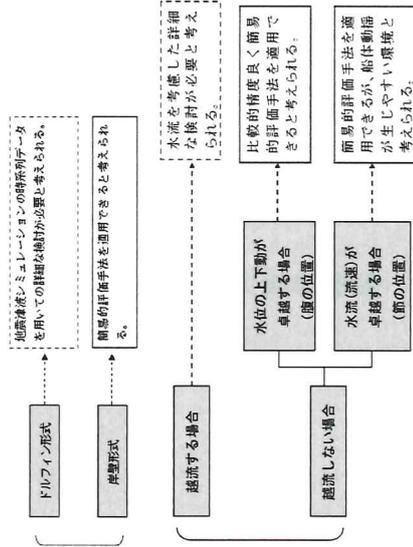
講演日時 2014.4.24

講演会場：こうべまちづくり会館

神戸大学名誉教授
久保 雅義 氏

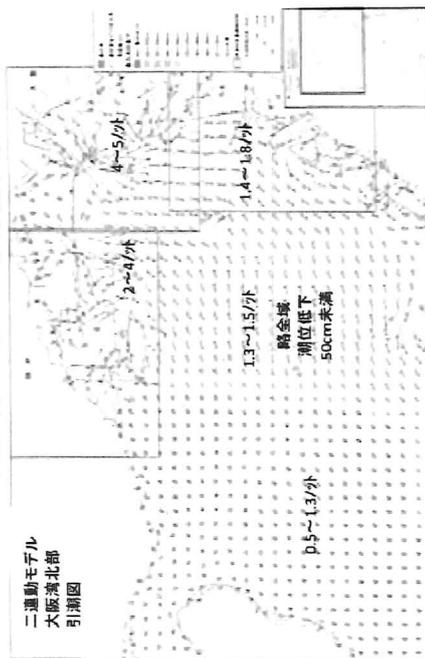
1

東日本大震災以前の検討



2

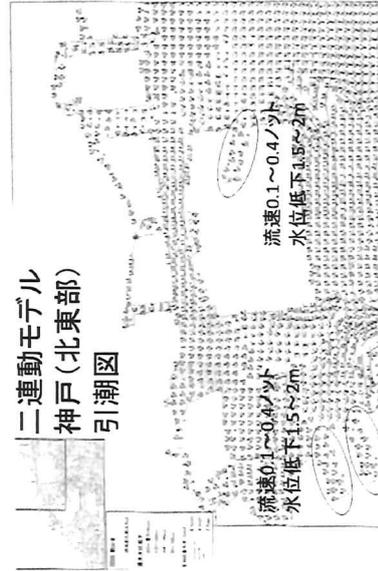
二連動モデル引潮図



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

3

流速は小さいが水位低下は大きい ⇒着底の危険性検討



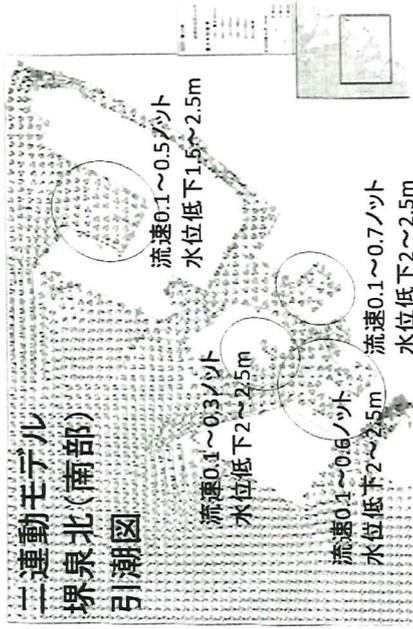
出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

4

講師 神戸大学

名誉教授 久保 雅義 氏

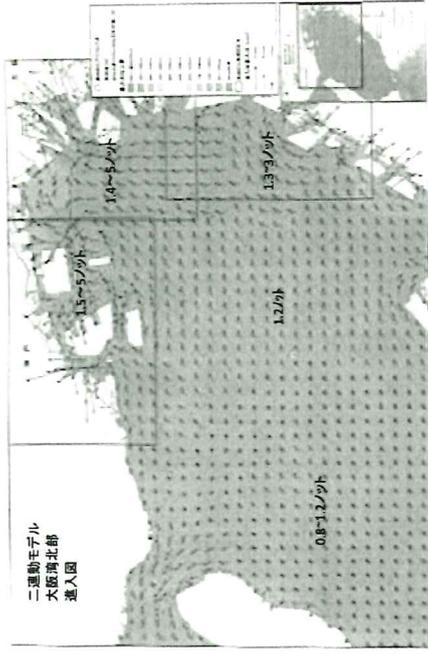
流速は小さいが水位低下は大きい
⇒着底の危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

5

二連動モデル進入図



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

6

流速は小さいが水位上昇は大きい
⇒乗揚げの危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

7

流速は小さいが水位上昇は大きい
⇒乗場の危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

8

東日本大震災以前の検討のまとめ

- 大阪湾の水深が深い所では流速も小さく水位変化も小さい。
- 一方港内では水深が浅く、水域も狭くなるためエネルギーが集中する。
⇒ 全体的には流速も大きく、水位変化も大きくなる。
- スリップのような場所では流速が小さくなる
がその分水位低下と上昇は大きくなる。
⇒ 着底と乗揚げの危険性について検討が必要
- 簡易計算で船に働く流体力と係留力に比較計算ソフトの開発(詳細は神戸海難防止研究会報告書参照)

9

東日本大震災以降の検討

- 東北大震災を受けて多くの前提条件に対して再検討を迫られた。
- 今までの想定地震規模を大きく見直し、2連動型から南海トラフ(通称巨大地震)を前提にした検討が開始された。
- 以下ではどのように考えるかについて課題を列挙する。

10

課題 1：防波堤の被災の可能性

- 大阪湾諸港の各自治体で、耐震強化された防波堤の整備状況についての資料は公表されていないため、可能な範囲で港湾管理者へのヒアリングを行った。
- 大阪府・市では、管理している防波堤に耐震性が備わっているかについては把握していないことであった。また、大阪府防災会議(第5回南海トラフ巨大地震災害対策検討部会)の報告では、大規模地震による津波で発生する防波堤の被害は14,310m(約52%)と想定されており、被害の主な要因は地震の揺れによる沈下を考慮したうえで、津波の越流によるとされている。今後、防波堤の耐震性の検証は進めていくが、防波堤については未定とのことであった。
⇒ 東日本大震災では専用の津波防波堤が被災を受けた
大阪湾の防波堤でも不確定要因を孕んでいることが明らかになった。
⇒ 津波計算の境界条件が変わる可能性を秘めている
南海トラフの数値計算結果は防波堤が無い事を前提条件にしている。

11

課題 2：係留している岸壁は耐震バースか否か？

- 耐震岸壁 ⇒ 南海トラフ巨大地震の場合でも被害は少ないと言われている。
必ずしも係留岸壁は全てが耐震岸壁ではない。
- 耐震バースでないバースもかなりある。
岸壁が崩壊 ⇒ 係留力算定の前提も壊れる。
- 自船の係留岸壁が耐震バースでなければ
港外避泊を前提とすべきである。

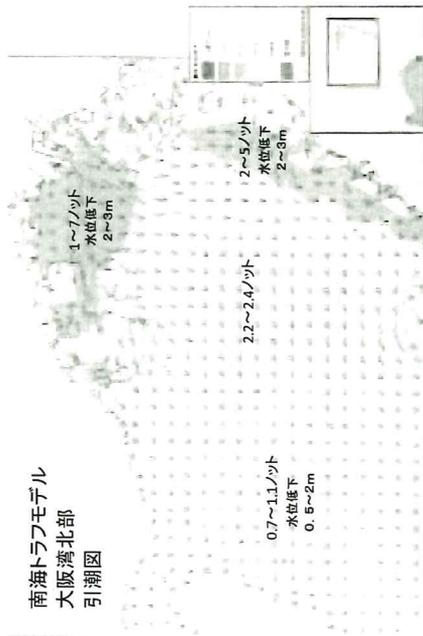
12

東日本大震災の教訓の活かし方

- 地震の想定規模が大きくなった
- 釜石の津波防波堤が倒壊し、防波堤の在り方がみなされ始めた。計算の前提として防波堤は破壊されているものとみなす。
- 多くの係留岸壁が壊れたことから、岸壁も無前提に安全とみるのではなく、耐震岸壁は一応安全とみることとし、非耐震岸壁では係留はできないものとする。

13

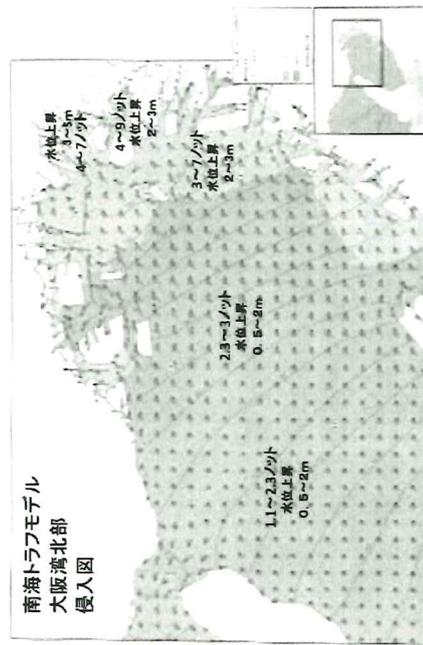
南海トラフモデル引潮図



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

14

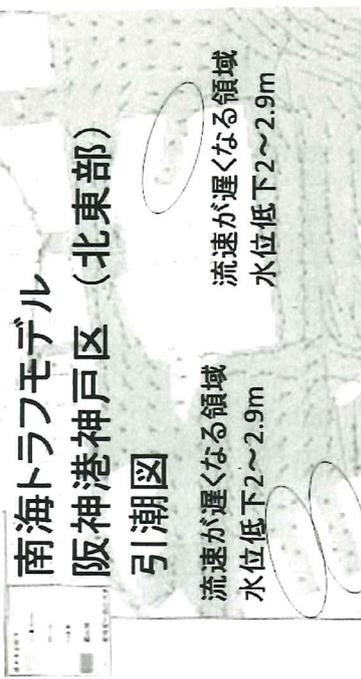
南海トラフモデル侵入図



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

15

流速は小さいが水位低下は大きい
⇒着底の危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

16

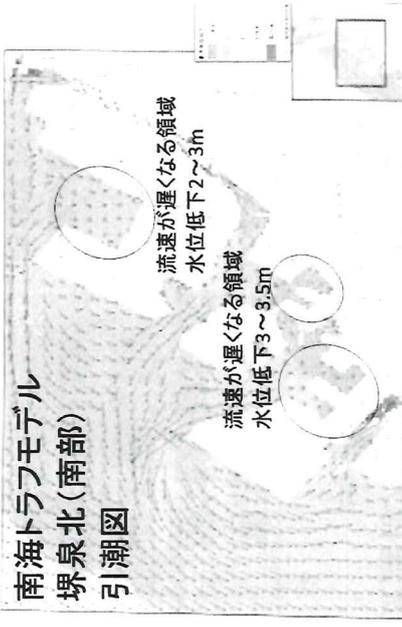
流速は小さいが水位上昇は大きい
⇒乗揚げの危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

17

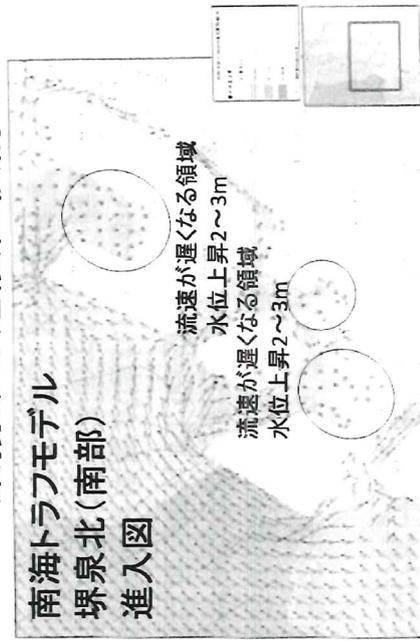
流速は小さいが水位低下は大きい
⇒着底の危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

18

流速は小さいが水位上昇は大きい
⇒乗揚げの危険性検討



出典：第五管区海上保安本部海洋情報部

19

港内避泊と湾内避泊の大局的比較

- ・浅い所、港内の狭い所では
 - ①津波流速が増す傾向にある
 - ②海面上昇、引潮は大きくなる
- ・これより津波時の避泊は港内よりも大阪湾の深い所の方が望ましいことが解る。

20

改めて地震津波への心構えについて

- 港湾施設は周期の短い通常波浪の制御は効果的である。
- すなわち通常波浪下では港湾施設は船舶を保護してくれる施設であると言える。
- しかし地震津波発生時は津波の周期(数十分)が長いため、港湾施設は津波を低減できないばかりでなく、津波を増幅する性質を持つている。
- さらに係留索が切断して船の漂流が始まれば、港内は閉鎖空間となり、港湾施設は漂流船にとっては障害物となることも想定する必要が発生する。
- 以上より津波の流圧力に対して係留力が大きいとの結果が得られたとしても、東北の地震津波での経験からすれば、できれば港外避泊の方が望ましい。
- 港内避泊を行う場合にはあくまでも自己責任の下に行ってください。いますすようお願いします。

21

係留か避泊かの事前検討事項

東北大震災以前の検討

- 検討事項1: 流体力の簡易計算
 - 検討事項2: 津波進入時の乗揚げの検討
 - 検討事項3: 津波引潮時の着底の検討
- 東北大震災以後の追加検討課題
- 検討事項4: 係留岸壁は耐震岸壁か否か
 - 検討事項5: 津波の係留岸壁越流可能性
 - 検討事項6: 火災の可能性
 - 検討事項7: プレジャーボートへの対応

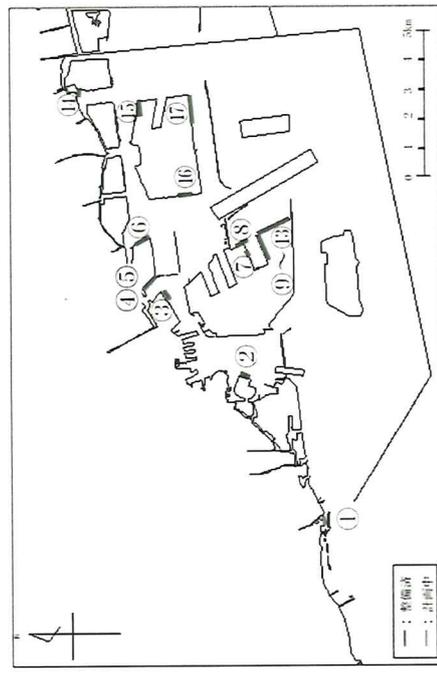
22

検討事項4: 係留岸壁は耐震岸壁か 否か

- 各自治体から係留岸壁の耐震性についての資料をいただいた。
- これらを以下に列挙する
- これを見る限りかなりの岸壁が耐震岸壁の条件を満たしていないことが解る。
- 我々は流体力に視点を注いでいたが、多くに係留支配要因が満たされて無い事によっておく必要性を痛感する。

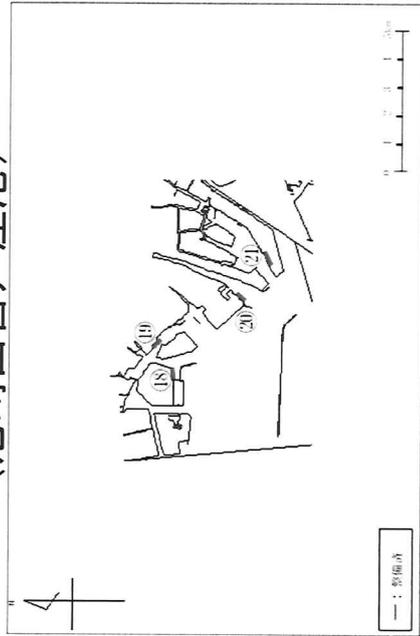
23

耐震強化岸壁整備状況(神戸港)



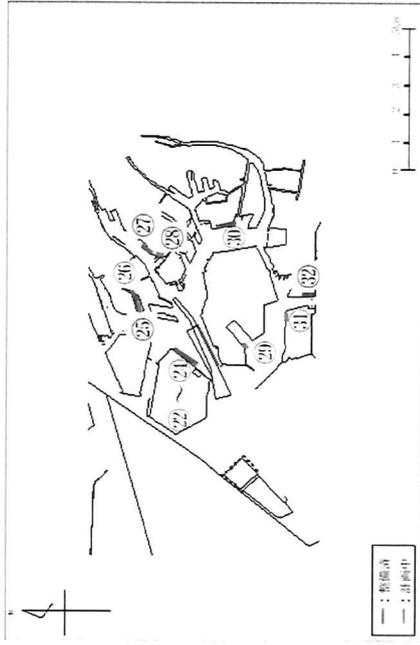
24

耐震強化岸壁整備状況 (尼崎西宮芦屋港)



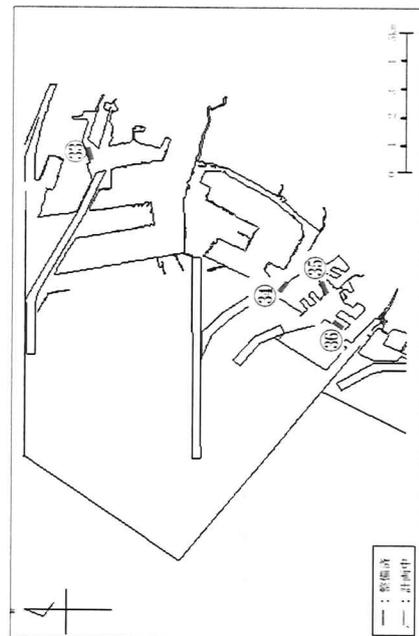
25

耐震強化岸壁整備状況(大阪港)



26

耐震強化岸壁整備状況(堺泉北港)



27

検討事項5:津波の係留岸壁越流可能性

- 以下の資料は海上保安庁水路部の計算結果に基づいた、岸壁越流岸壁を示している。
- 流体力の可否のみで係留可否の判断することができないことを示す資料といえる。

28

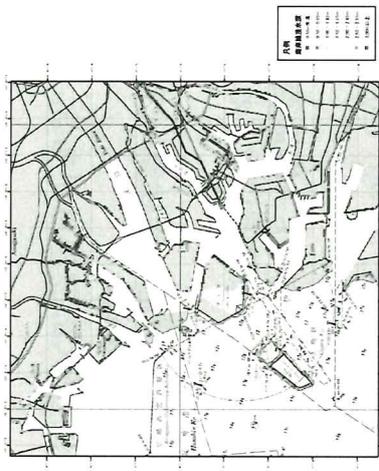
簡易的評価手法の使用上の前提条件その1

- 係留岸壁の越流(陸上部の浸水)可能性



海岸線越流想定図(神戸港)

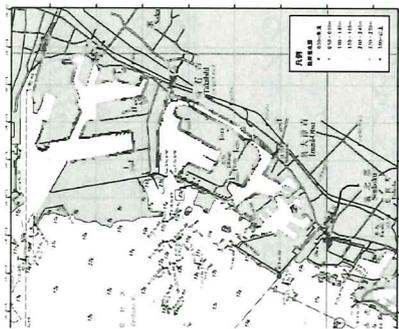
出典:第五管区海上保安本部海洋情報部



海岸線越流想定図(尼崎西宮芦屋港及び大阪港)

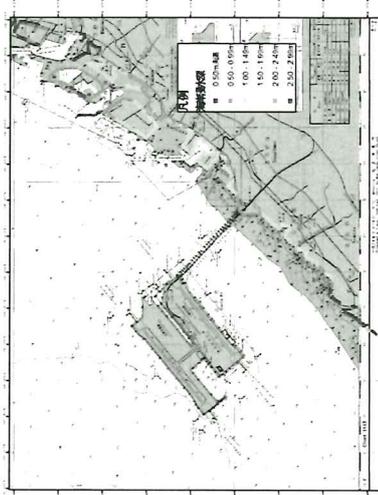
出典:第五管区海上保安本部海洋情報部

海岸線越流想定図(堺泉北港)



出典:第五管区海上保安本部海洋情報部

海岸線越流想定図(阪南港)



出典:第五管区海上保安本部海洋情報部

検討事項6：火災の可能性

- 係留岸壁の様々な視点での検討から離れるが、岸壁の周辺の事情を考えることも大切である。
- 港湾は資源を輸入する場所であるが、そこはエネルギーの輸入基地でもある。
- 津波は水で火災とは無縁と考えられがちであるが、過去の地震津波では火災が発生している。

33

検討事項7：プレジャーボートへの対応

- 地震津波発生時所有者はボートへの対応はできない。
- ガソリンを積んだボートもあると考えられるので、火災の原因にもなりえる。
- システム的対応が望まれる

34

港内係留か港外避泊か

- 以上で述べたいろいろな観点より要約してみよう。
- 結論から言えば港外避泊が最も望ましい。
- 港内係留はいろいろな危険性が多重に絡み合っており、推奨される方法ではない。
- 港外避泊は港内係留の場合のかなりの問題点をほとんど解決することができる。
- 東日本大震災を経験された方々の報告書ではほとんどの場合が港外避泊で助かったことを述べておられる。
- 危険な場所からは逃げるのが基本である。

35

港外避泊実現の困難の諸要因

- 大型船は入船係留をしている。このため緊急出港がなかなか難しい。
- 大型船はタグ+パイロット+綱取要員で出入港を行っている。津波の時にはこれではできない。
- 船の荷役作業を緊急に手仕舞いをするのもかなり時間を要する。
- これ以外にも多くの問題点がある。

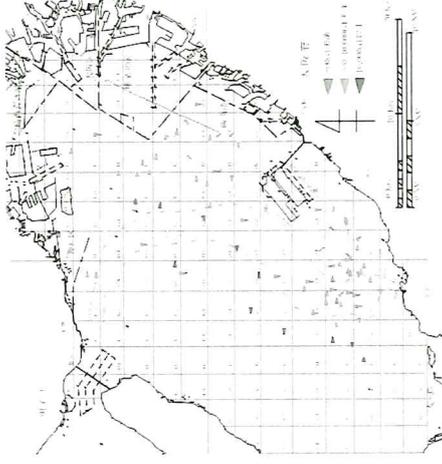
36

大阪湾以外での動向

- 以上で述べたように荷役を中止して90分間という限られた時間内に緊急出港することに関しては多くの課題があるのも事実である。
- 東京湾と伊勢湾ではタグボート1隻での緊急離機についての検討が日本航海学会での発表会で紹介されている。
- 大阪湾においてもタグボート1隻での緊急離機についての検討がなされることを切に願っている。

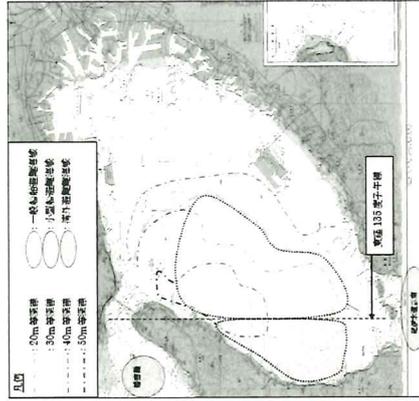
37

大阪湾内の台風避泊状況図 (2011年9月2日00時～24時)



38

大阪湾での津波避難



出典：平成24年度 津波襲来時の避難船舶二次災害防止対策の調査(公社)神戸海難防止研究会(避難海域の一例)

39

大阪湾における台風時と津波時の避泊の比較

- ○台風時の特徴
 - その1: 避泊を前提にするために、20m以浅の海域に避難船が多い。
(水深が深い所では錨かきが悪い。)
 - その2: 小型船は港内避泊が前提になっている。
 - その3: 風の方向は略同じなので、錨泊船は同じ方向を向く。
⇒ 船どうしの絡みが少ない。
- ○津波避泊の場合の特徴
 - その1: 深い所ほど津波の流速が遅くなるので、深い所へ錨泊する
津波海域とし、真経135度の真制を一般船舶の避泊地として推奨している。
 - その2: 深い所では錨かきが悪い。
水深10mは30m以深への避難を勧めている。
 - その3: 調査研究では、東経135度の西側の淡路島寄りの深い所を漁船・小型船の避泊海域とし、真経135度の真制を一般船舶の避泊地として推奨している。
- 津波時の港外避難において、錨泊して津波に対処することを想定した場合、水深30mを超える海域では深海投錨となり錨かきが悪く、投錨船と漂泊船の混在は海域で混乱を起す可能性があることから、大阪湾では錨泊せず、機関・舵を使用し、津波に対処することが望ましいと考えられるが、現場の意見も踏まえてさらに検討することが望まれる。

40

第20回 月例会概要

- 1 日 時 平成26年5月26日(月)15:00～16:10
- 2 場 所 神戸市立 こうべまちづくり会館 2階ホール
- 3 出 席 者 28名
- 4 概 要

(1) 事業経過報告等

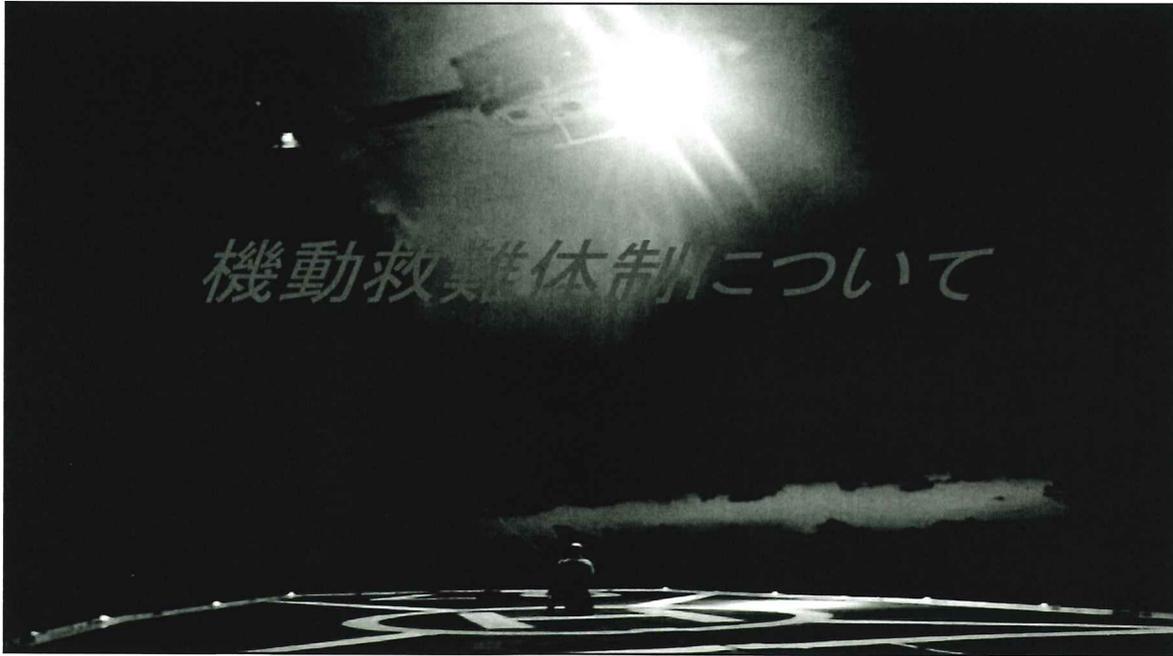
山本常務理事から事業報告及び会務報告が行われた。

(2) 講 演

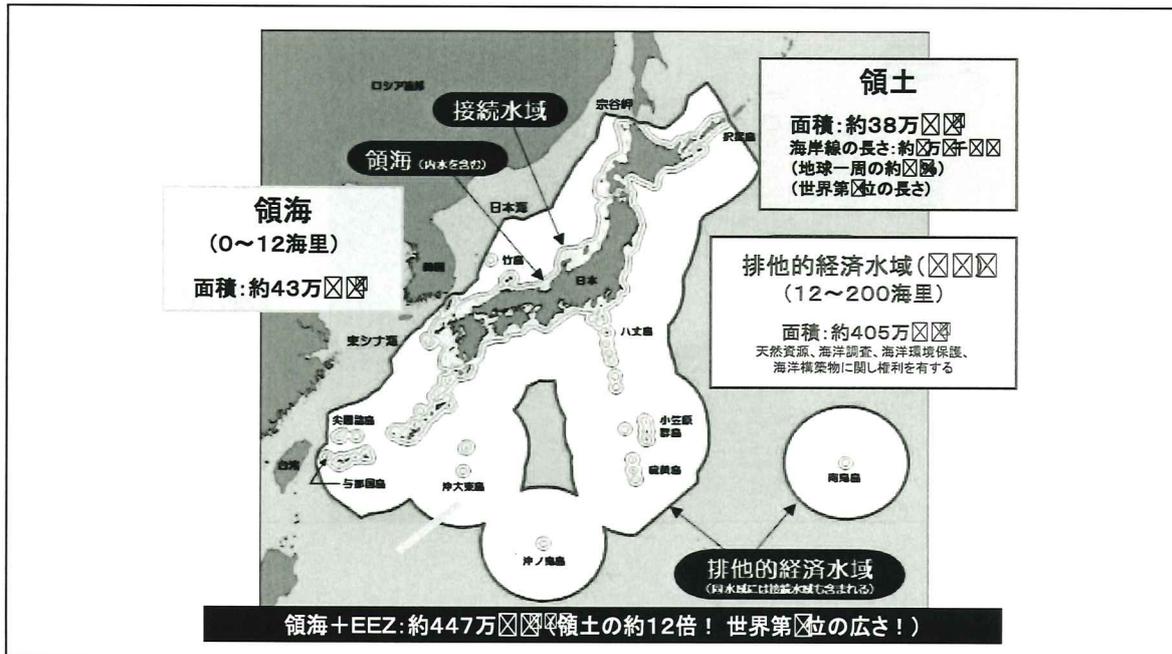
第五管区海上保安本部 警備救難部救難課 課長補佐 平野 智 氏により「海上保安庁の海難救助体制について」と題し、講演が行われた。

「海上保安庁の海難救助体制について」
～機動救難体制について～

講師 第五管区海上保安本部 警備救難部 救難課
課長補佐 平野 智氏

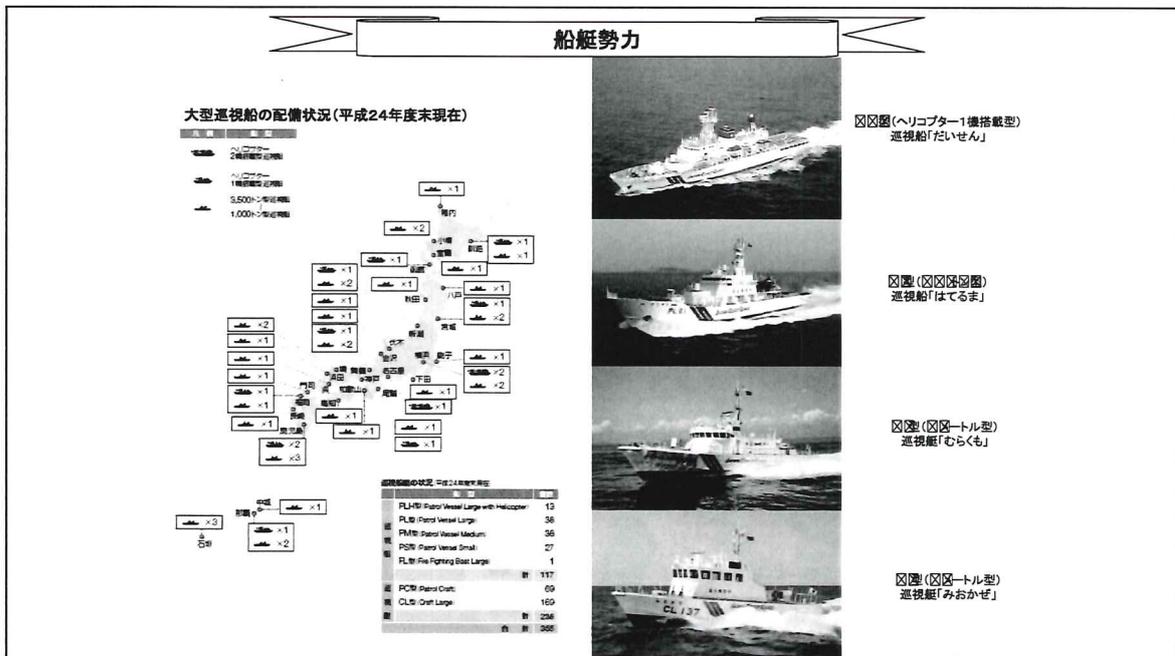
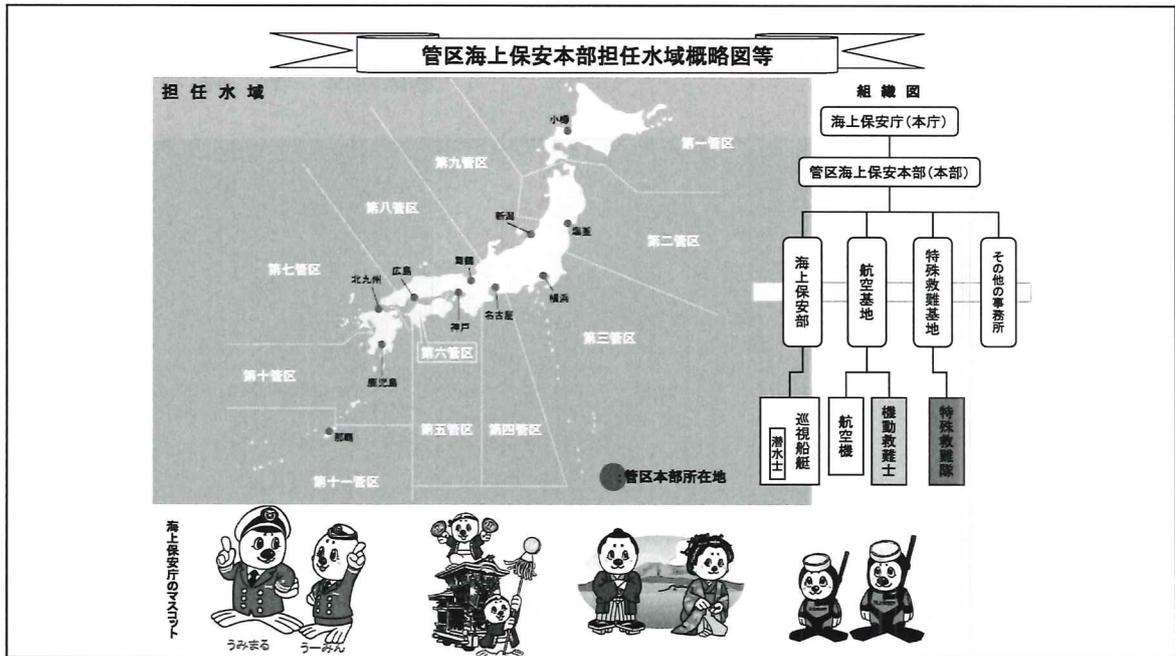


-1-



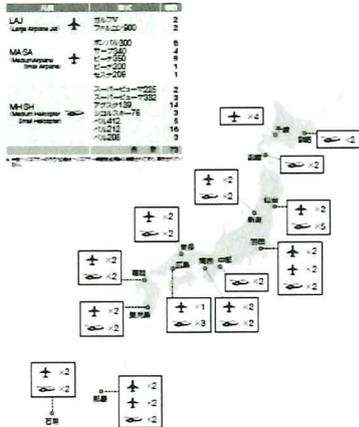
-2-

-13-



航空機勢力

航空機の配備状況(平成24年度末現在)



ガルフV
「うみわし」



ボンバルド300
「しまたか」



スーパーピューマ
「わかわし」



アグスタ139
「まなづる」

潜水指定船・機動救難士の配備状況

【特殊救難隊】 人 × 艦 = 艦

【機動救難士】 人 × 基地 = 艦

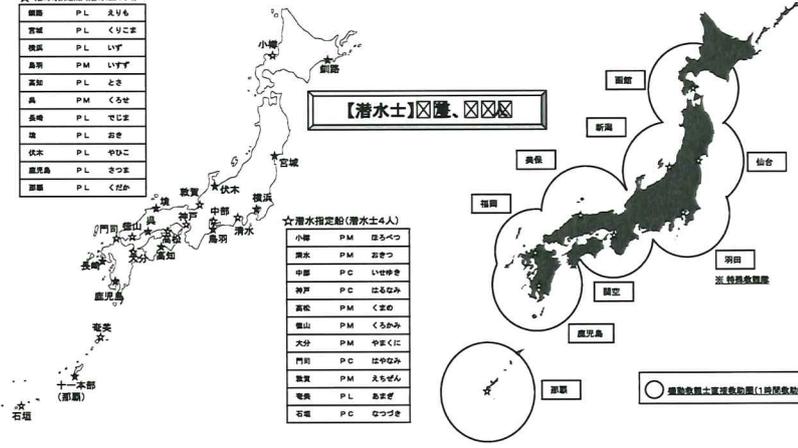
★潜水指定船(潜水士7人)

横須賀	PL	えりも
宮城	PL	くりごま
横浜	PL	いすず
島根	PM	いすず
高知	PL	とさ
兵庫	PM	くらせ
長崎	PL	せじま
徳島	PL	おさき
伏木	PL	やまこ
鹿児島	PL	さつま
那覇	PL	くじか

【潜水士】 艦、艦、艦

☆潜水指定船(潜水士4人)

小樽	PM	ほろべつ
青森	PM	おきつ
中部	PC	いせゆき
神戸	PC	はるなみ
高松	PM	くまの
徳山	PM	くらかみ
大分	PM	ゆまくに
門司	PC	はやなみ
舞実	PM	えちげん
電検	PL	あまぎ
石垣	PC	なつぎ



○ 機動救難士支援救助艇(特殊救難隊(メーゴ))

海上保安庁の救難要員

全国の海上保安庁職員約12,000人のうち、救難要員(海猿)の指名を受けているのは?(予算上)

- 潜水士.....121人
- 特殊救難隊...36人
- 機動救難士...72人



海上保安庁の各救助・救急勢力

特殊救難隊(救急救命士は1個隊に1名)



航空機による吊り上げ救助



機内での救急処置



船舶火災消火



転覆船内生存者救助



転覆船からの生存者救助



密閉式防護衣を装着した救助作業

機動救難士(救急救命士配置)



航空機による吊り上げ救助



航空機への傷病者揚収



航空機内における救急処置

潜水士



転覆船生存者確認



潜水による沈船船体調査



転覆船状況調査

機 動 救 難 業 務

一言で表現すると、『空飛ぶ海の救急救助隊』である。

○ヘリコプターと連携した吊上げ救助等迅速な人命救助
※航空基地に所属することにより、迅速な出動が可能

・ヘリコプターからの高度な降下手法による迅速な人命救助

・自給気潜水による人命救助

・傷病者を医療機関等に引継ぐまでの救急救命処置

潜水士の中から希望する能力により選抜される。

-11-

機動救助隊発足の理由は？

「118」番通報に対する迅速な対応



新しい救助体制の構築が必要

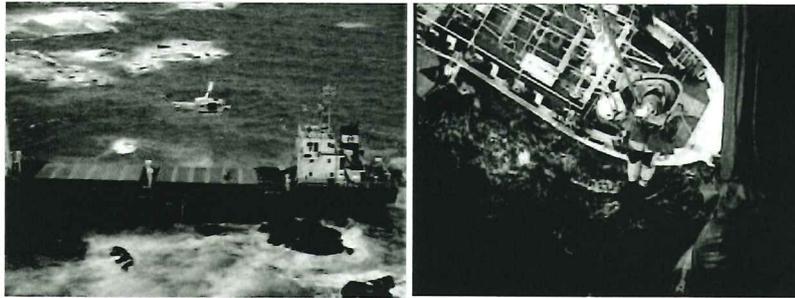


レンジャー、潜水、救急能力を有する航空救助員を
航空基地へ配属

-12-

ヘリコプターからの高度な降下手法による 迅速な人命救助

リペリング降下、ホイスト降下、海面飛び込み



-13-

自給気潜水による人命救助



-14-

傷病者を医療機関等に引継ぐまでの 救急救命処置



- 15 -

第五管区 潜水士の体制



○高度な知識・技術を必要とする特殊海難における人命・財産の救助

- ・ヘリコプターからの降下(ホイスト、海面飛び込み)による人命救助
- ・座礁船、火災船等からの人命等の救助
- ・自給気潜水による水面下における海難救助
- ・自給気潜水による水面下における犯罪捜査(実況見分等)、不審物の検索等警備関係業務
- ・管区における救難技術指導

ヘリ降下
(ホイスト、海面飛び込み)

潜水・40m
(最大45m)

転覆船対応

潜水検索等

危険物対応



○潜水技術を必要とする海難における人命・財産の救助等

- ・自給気潜水による水面下における海難救助
- ・自給気潜水による水面下における犯罪捜査(実況見分等)、不審物の検索等警備関係業務
- ・潜水研修(海保大)における支援・指導

潜水・40m

転覆船対応

潜水検索等



- 16 -

- 20 -

【転覆海難】 → 沈没の危険大

沈むのか？沈まないのか？
二次災害三次災害の危険大！



転覆船の周囲は危険がいっぱい！



転覆漁船の周囲は
魚網、釣り針！
漁獲物を狙ったサメ！



波浪・動揺危険

-17-

突然沈没???



転覆した船は、正常時の浮力
や船体強度より、はるかに低
い！

建造時の計算どおりにないため、
突然の船体破壊(折損)！

-18-

-21-

船体ダメージ、障害物の確認



舵軸・ペラ軸からエアもれは？

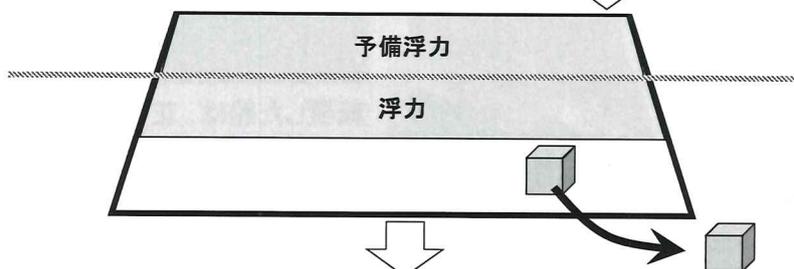
シート
静かに！

波の音で
聞こえん！



泡(エア漏れ)はあるか！

【転覆】



水中の障害物を船外除去・・・転覆船沈下

油の流出・・・滑る！

油臭気(石油ガス)による意識障害・健康被害！⇒溺れ！

流出油は転覆船内にも！



ヘリコプター緊急着水



転覆

転覆は船舶だけに限らず・・・航空機も！



事 業 報 告

阪神港（神戸区）大型客船の入出港に関する安全性の検証委員会
ビジュアル式操船シミュレータ実験

- 1 実施日 平成26年4月2日(水)～3日(木)
- 2 実施場所 (株)日本海洋科学 本社
ソリッドスクエア 東館1階 シミュレータセンター
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 シミュレータ実験実施内容
 - 2日(水) 13:00～13:30 集合・実施要領等説明
 - 13:30～13:45 ① 操船実験
 - 13:45～14:00 ② 操船実験
 - 14:00～14:15 休憩
 - 14:15～14:30 ③ 操船実験
 - 14:30～14:45 ④ 操船実験
 - 14:45～15:15 休憩・ミーティング
 - 15:15～15:45 ⑤ 操船実験
 - 15:45～16:25 ⑥ 操船実験
 - 16:25～17:05 ⑦ 操船実験
 - 17:05～17:35 休憩・ミーティング
 - 17:35～18:05 ⑧ 操船実験
 - 18:05～18:35 ⑨ 操船実験
 - 18:35～19:05 ⑩ 操船実験
 - 1日目終了
 - 3日(木) 09:00～09:10 集合・準備
 - 09:10～09:20 ⑪ 操船実験
 - 09:20～09:30 ⑫ 操船実験
 - 09:30～09:45 休憩
 - 09:45～09:55 ⑬ 操船実験
 - 09:55～10:05 ⑭ 操船実験
 - 10:05～12:05 検討会
 - 2日目終了 解散
- 5 資料
 - (1) 操船シミュレータ実験実施要領（「パイロットカード」）
 - (2) 第1回委員会が出された後日提出書類及び課題等
 - (3) 実験結果のまとめ（骨子）
 - (4) 操船シミュレータ実験 メモ用紙

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	村 岡 博	三菱重工業(株)神戸艦船工作部船渠長※
操 船 者	小見山 純 郎	大阪湾水先区水先人会
〃	松 榮 正 允	〃
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長)
〃	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長 (代 加藤 一也 航行安全課専門官)
〃	成 瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長
委 託 者	白波瀬 浩 司	神戸市みなと総局 技術部 計画課 計画担当係長
〃	鈴 木 朗	〃 〃 計画第1係
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	原 大 地	(株)日本海洋科学神戸支店長 コンサルタントグループ部長
〃	久 下 剛 也	〃 神戸支店 主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

平成26年度第1回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成26年4月8日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 平成26年度事業計画について

(2) 検討個品について

(3) その他

6 資 料

席上配布

(1) 資料 平成26年度事業計画について(案)

(2) 検討個品資料 1 修正箇所 3082 マラチオン
2 3082 マラチオン(1回目修正)
データ一覧

3 3139 二酸化塩素水溶液
データ一覧

(3) その他 「二酸化塩素水溶液」の関連追加資料(廣井先生より)

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 修正箇所 3082 マラチオンは修正箇所の確認を行なった。

2 3082 マラチオン(1回目修正)の検討を引き続き行ない終了した。

3 3139 二酸化塩素水溶液の検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) ████████ は欠席者

※海防研常任委員

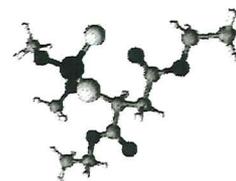
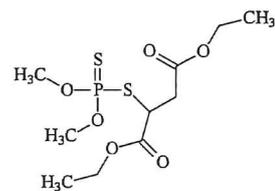
委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※	
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授	
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※	
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)	
〃	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)	
〃	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所主任研究員	
関係官庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官	
〃	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長	
〃	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)	
〃	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 濱田 春菜 第一海務係員)	
〃	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長	
事務局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事	
〃	宮 島 照 仁	〃	事業部長
〃	藤 原 昇	〃	事業部長補佐

国連番号

3082

馬拉チオン

MALATHION



物質の特定

C A S 番 号 : 121-75-5

化 学 式 : $C_{10}H_{19}O_6PS_2$; $(CH_3O)_2P(S)SCH(COOC_2H_5)CH_2COOC_2H_5$

別 名 : S-1,2-Bis(ethoxycarbonyl)ethyl 0,0-dimethylphosphorodithioate ;
(商品名) Butanedioic acid, [(dimethoxyphosphinothioyl)thio]-, diethyl ester ;
Diethyl((dimethoxyphosphinothioyl)thio)butanedioate ;
Diethyl(dimethoxythiophosphorylthio)succinate ;
Dimethyldicarbethoxyethyldithiophosphate ;
0,0-Dimethyl S-[1,2-di(ethoxycarbonyl)ethyl] dithiophosphate ;
0,0-Dimethyldithiophosphate diethylmercaptosuccinate ; (Malathion) ;
(Cythion)

S-1,2-ビス(エトキシカルボニル)エチル0,0-ジメチルホスホロジチオエート ;
ブタン二酸[(ジメトキシフオスフィノチオイル)チオ]ジエチルエステル ;
ブタン二酸ジエチル((ジメトキシフオスフィノチオイル)チオ) ; ヨハク酸ジ
エチル(ジメトキシチオホスホリルチオ) ; ジメチルジカルベトキシエチルジ
チオホスフェート ; ジチオリン酸0,0-ジメチルS-[1,2-ジ(エトキシカルボニ
ル)エチル] ; 0,0-ジメチルジチオホスエートジエチルメルカプトスクシナ
ート ; (マラソン) ; (シチオン)

[概説] マラチオンは、有機リン系の接触性の殺虫剤・殺ダニ剤の一種であり、国内では1953年に農薬登録された。有機リン系殺虫剤の中では人畜に対して最も毒性が低いとされている。アザミウマ類、アブラムシ類、ハダニ類等の広範囲の害虫に効果があるため、現在十数社から販売されている。原体は褐色の液体であるが、市販品は乳剤(含有率:約50%)や粉剤(含有率:1.5~3%)として販売されている。本シートでは純品(原体)について記載する。

化 学 的 分 類 : 有機リン系農薬

規則名・法規等

[規則名]

ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (MALATHION)

環境有害物質(液体)(備考1(4)の表に掲げられたもの及び備考の欄の規定により当該危険物に該当するもの又は備考2(8)の基準を満たすものであって他の危険性を有しないもの)(マラチオン)

危 一 規 則

分類・等級等: 有害性物質 9 III P

副次危険性等級: -

積 載 場 所: 甲板上, 甲板下

コンテナ収納検査: -

積 付 検 査 : -

IMDG-CODE

分類・等級等: Class 9 III P
副次危険性等級: -
積 載 場 所: On deck, Under deck

CFR 172. 101

分類・等級等: 9 (RQ 100/45.4) III P
ラベルコード: 9
積 載 場 所: On deck, Under deck

港 則 法: -

荷役許容量: A / - B / - C1 / - C2 / -

海 防 法: (注1) (注1) キシレン, エチルベンゼンを溶剤として用いている乳剤:
キシレン: Y類, エチルベンゼン: Y類

消 防 法: (注2) (注2) キシレン, エチルベンゼンを溶剤として用いている乳剤:
第4類第2石油類 (非水溶性)

船積上の注意事項

荷 姿 危一規則規定によるものであること。

- イ. 食品や飼料と一緒に輸送しないこと。
- ロ. その他環境有害物質についての一般的注意事項に従うこと。

物理／化学的性質

外 観 等: 農薬は黄色～褐色液体。純品は無色液体

臭 : 特異臭 (ニンニク様臭)

比重／嵩比重: 1.23g/cm³ (25/4℃)

蒸気比重: 11.5

融 点 (°C): 2.8～3

沸 点 (°C): 156～157 (93Pa)

溶 解 性:

水: 難 (注3) (注3) 0.014g/100ml水 (20℃)

アルコール: 易

エーテル: 易

用 途

殺虫剤 (アザミウマ類, アブラムシ類, ハダニ類など), 殺ダニ剤

化学的危険性

腐食性：

人：なし
 金属：なし
 木材：なし

酸化性：なし

水／空気／熱分解あるいは火災時に PO_x 、 SO_x などを含む刺激性のある有毒な煙霧やガスを発熱の作用：生ずる。

可燃性：あり

引火点(°C)：>163(O.C.) (注4)

発火点(°C)：

爆発限界(%)：

特記事項：光に安定。熱に対してやや不安定。水分によって緩慢な分解を受ける。溶液はpH12以上で急速に分解する。

(注4) 液体製剤(乳剤)の引火点は使用している溶剤による。キシレン、エチルベンゼンを溶剤としている乳剤の引火点は約25°Cである。

EmS F-A, S-F

消火剤：水噴霧、泡、粉末、炭酸ガス

検知法：

人体への影響

作業環境の許容濃度(TLV)	TWA	STEL	C(上限値)	経皮吸収	発がん性
	1 mg/m ³			あり	A4

毒性：LD₅₀ 290mg/kg (経口ラット)；LDL₀ 471mg/kg (経口ヒト)

蒸気、粉塵などを吸入した場合	悪心、おう吐、腹痛、下痢、頭痛、めまい、唾液分泌過多、流涎、不安感、全身倦怠感、流涙、縮瞳、気道分泌物増加、胸部圧迫感、頻脈、筋けいれん、発汗、息苦しさ、意識喪失を起こす。症状は遅れて現われることがある。マラチオンはコリンエステラーゼの活性を抑制し、神経伝達物質であるアセチルコリンの加水分解を妨げて、アセチルコリンが蓄積するためこれらの症状が現れる。
飲み込んだ場合	
皮膚に付着した場合	刺激する。接触性感作作用がある。容易に経皮吸収され中毒症状を示す。吸収した場所に発汗と痛みを起こす。これらに加えて、めまい、錯乱、ふらつき、言語不明瞭、不整脈、頻脈、けいれん、昏睡を起こすことがある。
眼に入った場合	刺激し、結膜炎を起こす。

MFAG	-
------	---

救 急 処 置

蒸気、粉塵 などを吸入 した場合	直ちに新鮮な空気のある場所に移し、保温安静に努め、医師の手当を受ける。要すれば、酸素吸入、人工呼吸を行う。(注5)
飲み込んだ 場合	活性炭約20gを水300mlとともに飲ませた後、下剤として約20gの硫酸マグネシウムを200mlの水に溶かして飲ませ、医師の手当を受ける。(注5)
皮膚に付着 した場合	多量の水と石けんで十分に洗う。刺激が続くときは医師の手当を受ける。(注5)
眼に入っ た場合	流水で十分に洗った後、医師の手当を受ける。
漏洩した 場合	火気厳禁とし、通風換気を十分に行い、保護具着用の上、破損箇所をシールし、吸着材をまいて掃き取った後、石灰水又はソーダ灰溶液をまいて大量の水で洗う。(注6)
保護具	有機ガス用防毒マスク又は自給式呼吸具、保護衣、保護メガネ、保護手袋、保護長靴

(注5) 解毒剤として、PAM (2.5%水溶液) の静脈注射又は硫酸アトロピン1～2錠の内服が有効である。

(注6) 水生生物に対して毒性が非常強いので環境への放出は避けること。また、ミツバチに対しても有害であるので注意すること。

LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る
航行安全対策調査委員会
棧橋現地調査及び夜間視認調査 実施要領

- 1 日 時 4月8日(火) 1830~2200
- 2 観測場所 ①A社第1棧橋
②A社第2棧橋に着棧中のLNG船 船橋
- 3 参加者 委員等16名 委員以外の事務局等14名
- 4 視認状況の評価方法 視認調査票(別紙1、2参照)記入による
- 5 調査予定日の日没及び月齢等
日没 18時24分
月齢 8.3(小潮)
- 6 実施要領
 - 1830 A社最寄駅 集合 タクシー分乗
 - 1845 A社「中ホール」集合
 - 1850 ミーティング開始
 - 1910 ミーティング終了
・・・(構内バスで移動)・・・
 - 1920 A社第1棧橋上 視認調査開始
 - 2010 A社第1棧橋上 視認調査終了
・・・(構内バスで移動)・・・
 - 2020 A社第2棧橋に着棧中のLNG船船橋 視認調査開始
 - 2120 同上 視認調査終了
・・・(構内バスで移動)・・・
 - 2130 ミーティング開始
 - 2200 ミーティング終了
 - 2200 タクシー分乗(又はバス) A社最寄駅

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略) は欠席者

※海防研常任委員

委 員 長	鈴木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
〃	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
〃	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	池 野 誓 男	大阪府タグ事業協同組合理事長 (同席 植村 博 専務理事)
〃	松 田 和 男	堺泉北船舶安全協議会会長
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 祐司 安全課長) (同席 吉本 秀幸 専門官)
〃	八 木 博 志	大阪海上保安監部長(代 勝部 光人 航行安全課長)
〃	宮 本 勝 通	堺海上保安署長 (同席 窪田 照雄 港務係員)
〃	井 上 博 睦	大阪府港湾局長
委 託 者	A社	
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	塔 本 吉 夫	〃 事業部長補佐
〃	高 橋 浩 子	(株)日本海洋科学神戸支店主任コンサルタント
〃	久 下 剛 也	〃 〃 主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会
ビジュアル式操船シミュレータ実験Ⅱ

- 1 実施日 平成26年4月21日(月)～22日(火)
- 2 実施場所 (株)日本海洋科学 ソリッドスクエア 東館1階
シミュレータセンター
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 シミュレータ実験実施内容
 - 21日(月) 09:00～09:30 実施要領等説明
 - 09:30～10:05 ① 操船実験
 - 10:15～10:50 ② 操船実験
 - 10:50～11:10 ミーティング・休憩
 - 11:10～11:45 ③ 操船実験
 - 11:55～12:30 ④ 操船実験
 - 12:30～13:20 ミーティング・昼食
 - 13:20～14:10 ⑤ 操船実験
 - 14:20～15:10 ⑥ 操船実験
 - 15:10～15:30 ミーティング・休憩
 - 15:30～16:05 ⑦ 操船実験
 - 16:15～17:05 ⑧ 操船実験
 - 17:05～17:25 ミーティング・休憩
 - 17:25～18:00 ⑨ 操船実験
 - 18:10～18:45 ⑩ 操船実験
 - 18:45～19:05 ミーティング
 - (1日目終了)

 - 22日(火) 08:30 集合
 - 08:45～09:15 ⑪ 操船実験
 - 09:25～09:55 ⑫ 操船実験
 - 09:55～10:15 ミーティング・休憩
 - 10:15～10:45 ⑬ 操船実験
 - 10:55～11:25 ⑭ 操船実験
 - 11:25～12:15 ミーティング・昼食

12 : 15 ~ 12 : 45 ⑮ 操船実験
12 : 55 ~ 13 : 25 ⑯ 操船実験
13 : 25 ~ 13 : 45 ミーティング・休憩
13 : 45 ~ 14 : 15 ⑰ 操船実験
14 : 25 ~ 14 : 55 ⑱ 操船実験
14 : 55 ~ 15 : 15 ミーティング・休憩
15 : 15 ~ 15 : 45 ⑲ 操船実験
15 : 55 ~ 16 : 25 ⑳ 操船実験
16 : 25 ~ 17 : 00 ミーティング
17 : 00 解散

5 資 料

- (1) ビジュアル式操船シミュレータ実験 I 実施方案
- (2) アンケート用紙
- (3) パイロットカード

以 上

別紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) は欠席者

※海防研常任委員

部会長	世良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委員	鈴木 三郎	神戸大学名誉教授※
〃	松本 宏之	海上保安大学校教授※
〃	村井 五郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中島 敏行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今西 邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫田 孝広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國友 雄二	(株)商船三井関西支店副支店長※
〃	松島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
操船者	望月 誠	大阪湾水先区水先人会
〃	山田 哲也	〃
関係官公庁	犬藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 三田 弘 企画調整官) (同席 戸川 義徳 安全課海務第二係長)
〃	八木 博志	大阪海上保安監部長 (同席 勝部 光人 航行安全課長)
〃	宮本 勝通	堺海上保安署長 (代 清水 景平 港務係長)
委託者	A社	
事務局	山本 幸典	(公社)神戸海難防止研究会 常務理事
〃	宮島 照仁	〃 事業部長
〃	中村 紳也	(株)日本海洋科学 専務取締役
〃	伊藤 格	〃 コンサルタントグループ統括部長
〃	原 大地	〃 神戸支店長
〃	久下 剛也	〃 神戸支店主任コンサルタント
〃	高橋 浩子	〃 〃 主任コンサルタント
〃	平田 裕一	〃 〃 コンサルタント

平成26年度第2回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成26年5月13日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 修正箇所 3082 マラチオン/3139二酸化塩素水溶液

2 3082 マラチオン (2回目修正)

3 3139 二酸化塩素水溶液 (1回目修正)

データ一覧

4 1908 安定化二酸化塩素

データ一覧

(2) その他 「タンクコンテナ不具合によるトラブル発生について」

(廣井先生より)

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 修正箇所 3082 マラチオン/3139二酸化塩素水溶液は修正箇所の確認を行なった。

2 3082 マラチオン (2回目修正) は一部修正を行なうことを前提に検討を終了した。

3 3139 二酸化塩素水溶液 (1回目修正) の検討を行なった。次回も引き続き検討を行うこととなった。

4 1908 安定化二酸化塩素の検討は次回に行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
〃	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
〃	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所主任研究員
関係官庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
〃	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 伊藤 友希 第一災害対策係長)
〃	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
〃	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 濱田 春菜 第一海務係員)
〃	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 正木 直人 第一海務係専門員)
事務局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議

1 日 時 平成26年5月22日(木)13:30～14:10

2 場 所 神戸第2地方合同庁舎 9階 事案対策室

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動の実施計画について

5 資 料

(1) 資料1 全国海難防止強調運動基本計画

(全国海難防止強調運動実行委員会)

(2) 資料2 平成26年度全国海難防止強調運動実施計画

(全国海難防止強調運動実行委員会)

(3) 資料3 平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施要領(案)

(4) 資料4 平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動啓蒙用品等について

参考資料

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施要領プレゼン資料

平成25年度全国海難防止強調運動の実施結果について

平成26年度実施計画について(案)

6 議 事 概 要

事務局より出欠状況が報告され、資料の確認後、(公社)神戸海難防止研究会 福間和之 会長の挨拶があり、引き続き、第五管区海上保安本部 平田 友一 次長の挨拶が行われた。

次に事務局並びに第五管区海上保安本部から資料(案)の説明が行われた。

1) 資料(1) (2) (3)について、第五管区海上保安本部 坂中 裕司 交通部安全課長から説明があり了承された。

2) 資料(4)について、事務局から説明があり了承された。

以 上

別紙

出席者名簿

(順不同・敬称略) は欠席者

構成員	池内幸司	近畿地方整備局長 (代 福嶋 実 沿岸域管理官)
〃	三浦真紀	四国地方整備局長
〃	大久保 仁	近畿運輸局長 (代 岩野 正義 海上安全環境部首席運航労務監理官)
〃	安藤 昇	神戸運輸監理部長 (代 田中 暁 海上安全環境部長)
〃	澤山健一	四国運輸局長 (代 岡 孝憲 海上安全環境部次長)
〃	上垣内 修	大阪管区気象台長 (代 永井 千春 気象防災部海洋情報調整官)
〃	平井 透	神戸地方海難審判所長 (代 真鍋 健一 書記官)
〃	花原敏朗	運輸安全委員会事務局神戸事務所長 (代 田中 博史 事故調査調整官)
〃	堀尾保之	水産庁瀬戸内海漁業調整事務所長 (代 東原 茂 調整課長)
〃	今西邦彦	(一社)日本船長協会技術顧問
〃	山田邦雄	(公社)関西小型船安全協会代表理事 (代 天野 俊夫 事務局長)
〃	田淵訓生	全国内航タンカー海運組合関西支部長 (代 永石 大機 事務局長)
〃	津田哲夫	全国内航タンカー海運組合薬槽船支部長 (同上)
〃	山田 登	内海水先区水先人会会長 (代 齋藤 實 理事)
〃	村井五郎	大阪湾水先区水先人会会長 (代 中島 敏行 副会長)
〃	興村明仁	近畿旅客船協会会長
〃	加藤琢二	神戸旅客船協会会長 (代 山西 哲司 専務理事)
〃	一色昭造	四国旅客船協会会長
〃	山崎正一	日本押船土運船協会会長 (代 御池 俊郎 業務委員)
〃	鴨頭明人	全日本海員組合関西地方支部支部長 (代 遠藤 飾 副支部長)
〃	和田文男	全日本海員組合中国・四国地方支部支部長
〃	池田秀文	大阪湾広域臨海環境整備センター常務理事
〃	渋谷敏郎	PW安全協会関西地方本部本部長
〃	酒井隆司	日本郵船(株)関西支店支店長(代 迫田 孝広 支店長代理)
〃	村尾圭司	川崎汽船(株)関西支店支店長
〃	國友雄二	(株)商船三井関西支店副支店長

構成員 菅野孝一 第五管区海上保安本部長（代 平田友一次長）
（同席 犬藤学 交通部長、坂中裕司 交通部安全課長
谷岡敦 安全課専門官、川端成記 海務第一係長
空野哲平 海務第一係専門員、
土居健治 企画課課長補佐、平野智 救難課課長
補佐）

〃 寄神茂之 公益財団法人 海上保安協会神戸地方本部本部長
（代 菱田憲次 事務局長）

〃 福間和之 公益社団法人 神戸海難防止研究会会長

構成員 29 団体 欠席 8 団体

地区推進母体構成員

- 〃 大阪地区海難防止強調運動推進連絡会議議長
（代 勝部光人 大阪海上保安監部航行安全課長）
- 〃 兵庫県阪神淡路地区海難防止強調運動推進連絡会議議長
（代 前田健太 神戸海上保安部航行安全課長 同席 正木直人 専門員）
- 〃 播磨地区海難防止強調運動推進連絡会議議長
（代 片山敬義 姫路海上保安部交通課長）
- 〃 和歌山北部地区海難防止強調運動推進連絡会議議長
（代 渡川明 和歌山海上保安部交通課長）
- 〃 紀南地区海上安全対策協議会会長
（代 長澤孝二 田辺海上保安部交通課長）
- 〃 徳島地区海難防止強調運動推進連絡会議議長
（代 森本整吾 徳島海上保安部交通課長）
- 〃 高知地区海難防止強調運動推進連絡会議議長
（代 増井和英 高知海上保安部交通課長）
- 〃 大阪湾海上交通センター所長
（代 新富敏隆 大阪湾海上交通センター運用管制課長）

地区構成員 8 団体

事務局 山本典幸 公益社団法人 神戸海難防止研究会常務理事
〃 宮島照仁 〃 事業部長
〃 塔本吉夫 〃 事業部長補佐
〃 藤原昇 〃 事業部長補佐
〃 菱田憲次 公益財団法人 海上保安協会神戸地方本部事務局長

合計 40 名

※ 構成員 37 団体

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施要領（案）

（平成26年7月～平成27年6月）

I 全国運動 <海の事故ゼロキャンペーン>

平成26年度全国海難防止強調運動実施計画（平成26年3月4日全国海難防止強調運動実行委員会）に基づく重点事項及び推進項目、これに地方独自の推進項目をあわせた計画とする。

第1 キャンペーン期間

平成26年7月16日（水）から31日（木）まで（16日間）

第2 重点事項等

1 重点事項

- (1) 「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」
- (2) 「ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保」
- (3) 【地方重点項目】「小型船舶における軽率海難防止の徹底」

2 推進項目

- (1) 「見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進」
 - ア 常時適切な見張りの徹底
 - イ 船舶間コミュニケーションの促進
 - ・ 早めに相手船にわかりやすい動作をとる
 - ・ VHF や汽笛信号等を活用する
 - 【地方推進項目】国際VHFの常時聴守
 - ・ AIS情報の活用と正しい情報の入力
- (2) 「ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保」

小型船舶について自己救命策の確保
- (3) 【地方重点項目】「小型船舶における軽率海難防止の徹底」
 - ア 【地方推進項目】発航前における船体、機関等点検の徹底
 - イ 【地方推進項目】船舶運航にかかる基本的事項遵守の徹底
 - ウ 【地方推進項目】航行中のみならず操業・作業中も含めた見張りの徹底
 - エ 【地方推進項目】気象・海象情報の入手
 - オ 【地方推進項目】構成員が連携した安全活動の推進

※小型船舶：プレジャーボート、漁船、遊漁船

II 地方運動（霧海難防止キャンペーン）

近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議独自の運動として霧の多発する時期を捉えて、次のキャンペーンを実施する。

1 霧海難防止キャンペーン

（1）運動名

霧海難防止キャンペーン

（2）運動期間

平成27年4月1日（水）から同年6月30日（火）まで（3ヶ月間）

（3）推進項目

- 気象状況の早期把握
- 船舶間コミュニケーションの促進
- 航法の遵守
- 自動操舵装置の使用を控える
- 早期避泊

III 各運動の実施計画

別紙のとおり。

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動実施計画（案）

各運動共通

区分	実施項目	実施団体
イ 広報活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 機関紙を通じての広報等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本会議事務局から構成員あて広報文を配布 2 ポスター等の配付・掲示 <ul style="list-style-type: none"> ・ 中央作成のポスター等を配布、掲示 ・ 当地方作成の広報用グッズを関係先に配布 ・ 各地区が必要に応じてポスター及びリーフレット等を適宜作成し配布 3 その他の広報活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ 横断幕、垂れ幕、海難〇旗、表示板等を構成員の庁舎・船舶等に掲示 ・ インターネットHP、電光掲示板等を活用した周知 ・ 船内放送、場外放送等による周知 	全構成員が独自及び連携して実施
ロ 各種行事	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「1日船長」、「1日〇〇長」などの任命 ・ 体験航海、海上パレード等の実施 ・ 灯台、船舶等構成員の施設の一般開放 	
ハ 安全に関する指導、教育、訓練	<ol style="list-style-type: none"> 1 訪船指導 <ul style="list-style-type: none"> 着舷中の旅客船、貨物船及びタンカー等を訪問し、「常時適切な見張り」と「国際VHFの常時聴取」を目的とした安全指導を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 2 現場指導 <ul style="list-style-type: none"> プレジャーボート、遊漁船、漁船及び工事作業船等に対して、「軽率海難の防止」と「ライフジャケットの常時着用」を目的とした安全指導を実施 3 企業訪問 <ul style="list-style-type: none"> マリーナ等を訪問し、「軽率海難の防止」及び「ライフジャケットの常時着用」を目的とした安全指導を実施 4 構成員の連携 <ul style="list-style-type: none"> 1～3については、合同パトロールを計画するなど、可能な限り構成員が相互に連携した安全指導を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 	
	<ol style="list-style-type: none"> 1 安全研修会等 <ul style="list-style-type: none"> 関係団体及び企業により、関係者を対象とした安全研修会等を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 2 海難防止講習会 <ul style="list-style-type: none"> 各地区において海難防止講習会を実施 また、関係者が集まる会議等の場を活用した海難防止講習会を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 3 構成員の連携 <ul style="list-style-type: none"> 1と2について、可能な限り構成員が相互に連携した教育活動を実施（グッズ及びリーフレットを活用） 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレジャーボート等救難訓練等の各種救難訓練を実施 	
実施結果報告	<p>各運動の実施後1ヶ月以内に、別添様式を参考にして、実施した概要及びその中で効果的であったものを記載し、事務局あて報告。（実施状況の説明用に画像データを適宜添付のこと。）</p> <p>※報告先 tounoto@kobe-kaibouken.or.jp</p>	

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動活動報告書

1. 活動実績総括表

組織名

(1) 広報活動

(2) 各種行事

(3) 安全に関する指導・教育・訓練

用途		種別	全国海難防止強調運動
安全運航に関する指導 隻数	漁船		隻
	プレジャーボート		隻
	貨物船		隻
	木材運搬船(再掲)		隻
	タンカー		隻
	旅客船		隻
	作業船		隻
	その他		隻
	合計		隻
企業等訪問件数			件

(4) 安全教育関係

項目	種別	全国海難防止強調運動	
		実施回数	受講者数
海上安全教室		回	人
海難防止講習会		回	人
合計		回	人

2. 留意事項

- (1) 実施計画に基づいた活動を実施した際は、写真撮影のうえ本報告書に添付してください。
- (2) ポスター、パンフレットを掲示した場合は、写真撮影のうえ本報告書に添付してください。
- (3) 各運動の実施後1ヶ月以内に画像添付のうえ下記アドレスまでメール送信願います。

toumoto@kobe-kaibouken.or.jp

平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動用啓蒙用品

① 『うちわ』

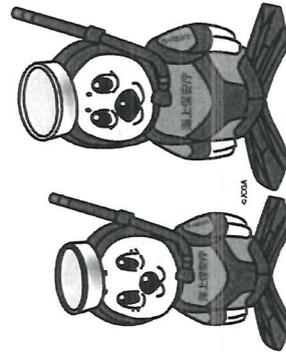


裏

表

海難ゼロへの願い

- ・見張りの徹底及び船舶間コミュニケーションの促進
- ・ライフジャケットの常時着用等自己救命策の確保
- ・小型船舶における軽率海難防止の徹底
(ブルジャーボートの発航前点検の徹底)



近畿・四国地方海難防止強調運動推進連絡会議

阪神港（神戸区）大型客船入出港に関する安全性の検証 第2回委員会

1 日 時 平成26年6月2日(月) 13:25～16:05

2 場 所 神戸市役所 1号館 21階 第1会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) ビジュアル式操船シミュレータ実験結果について
- (2) 入出港及び係留中等の安全性・航行安全対策の検討について
- (3) 報告書構成について

5 資 料

- (1) 検討資料委2-1 ビジュアル式操船シミュレータ実験結果（案）
- (2) 検討資料委2-2 サン・プリンセスの安全性の検討（案）
- (3) 検討資料委2-3 報告書構成（案）
- (4) 参考資料1 操船シミュレータ実験実施結果（資料編）（案）
- (5) 参考資料2 客船「飛鳥II」嚮導時におけるヒヤリハット事例（案）

席上配布資料

- (1) 席上配布-1 検討資料委2-1 全差替え
- (2) 席上配布-2 検討資料委2-2 全差替え
- (3) 席上配布-3 検討資料委2-3 P6 差替え
- (4) 席上配布-4 検討資料委1-3 P27～P31 差替え

その他資料

参照資料 検討資料委1-3 （参照資料）

6 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、鈴木委員長により議事が進められた。

7 審 議 結 果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	村 岡 博	三菱重工業(株)神戸艦船工作部船渠長※
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 仲田 幸生 海務第二係専門員)
〃	徳 永 裕 之	神戸海上保安部長 (代 前田 健太 航行安全課長) (同席 加藤 一也 航行安全課専門官)
〃	成 瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 中島 靖 神戸港湾事務所長) (同席 小西 孝治 海岸保全係長)
委 託 者	桜 井 秀 憲	神戸市みなと総局 技術部長
〃	田 中 誠 夫	〃 技術担当部長
〃	山 本 雄 司	〃 技術部 計画課長
〃	白波瀬 浩 司	〃 技術部 計画課 計画担当係長
〃	小 林 弘 幸	〃 みなと振興部 海務課長
〃	村 井 宏 一	〃 みなと振興部 海務課 港務係長
〃	杉 浦 裕 幸	〃 みなと振興部 振興課 振興担当係長
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	原 大 地	(株)日本海洋科学神戸支店長 コンサルタントグループ部長
〃	久 下 剛 也	〃 神戸支店 主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

平成26年度第3回船積危険品研究委員会

1 日 時 平成26年6月10日(火)13:00～15:00

2 場 所 商船三井ビル 4階 会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 連絡事項

5 議 題

(1) 検討個品について

(2) その他

6 資 料

席上配布

(1) 検討個品資料 1 二酸化塩素水溶液(2回目修正)

データ一覧

2 1908 安定化二酸化塩素

データ一覧

(2) その他 「メタクリロニトリル」HP掲載データ(修正依頼)及び

平成24年12月24日の官報

(廣井先生より)

7 議 事

事務局より出欠状況、資料の確認の後、廣井委員長により議事が進められた。

検討個品資料 1 二酸化塩素水溶液(2回目修正)の検討を行なった。次回も
1908 安定化二酸化塩素とともに検討を行なうこととなった。

2 1908 安定化二酸化塩素の検討を行なった。次回も引き続き検
討を行うこととなった。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	廣 井 正 男	元神戸商船大学教授※
委 員	三 村 治 夫	神戸大学大学院海事科学研究科教授
〃	児 玉 正 浩	(一財)海上災害防止センター西日本支所キソー化学 分析センター長※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※ (代 白方 馨 海務監督)
〃	慶 松 美 雄	日本沖荷役安全協会神戸支部専務理事・事務局長※ (代 藤原 外喜夫 安全管理部長)
〃	山 根 健 次	(独)海上技術安全研究所構造基盤技術系基盤技術研究 グループ主任研究員
関 係 官 庁	徳 田 直 之	神戸運輸監理部海上安全環境部船舶安全環境課専門官
〃	真 鍋 朗 宏	第五管区海上保安本部警備救難部環境防災課長 (代 伊藤 友希 第一災害対策係長)
〃	坂 中 裕 司	第五管区海上保安本部交通部安全課長 (代 仲田 幸生 海務第二係専門員)
〃	勝 部 光 人	大阪海上保安監部航行安全課長 (代 川北 誠司 第一海務係員)
〃	前 田 健 太	神戸海上保安部航行安全課長 (代 壺内 孝司 第一海務係長)
事 務 局	山 本 幸 典	公益社団法人神戸海難防止研究会常務理事
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐

LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る航行安全対策調査委員会 第3回検討部会

- 1 日 時 平成26年6月17日(火) 13:30～16:25
- 2 場 所 神戸メリケンパークオリエンタルホテル 4階 銀河の間
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議 題

- (1) 操船シミュレータ実験Ⅱ実施結果について
- (2) 風速基準見直しに係る航行安全性の検討について
- (3) 操船シミュレータ実験Ⅲ実施方案について

- 5 資 料 (送付済み)

- (1) 検討資料部3-1 操船シミュレータ実験Ⅱ実施結果 (案)
- (2) 検討資料部3-2 風速基準見直しに係る航行安全性の検討 (案)
- (3) 検討資料部3-3 操船シミュレータ実験Ⅲ実施方案 (案)

席上配布資料

- (1) 調査方針変更 (案)

- 6 議 事

事務局により出席者の紹介、資料の確認後、世良 亘部会長により、議事が進められた。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

部 会 長	世 良 亘	神戸大学大学院海事科学研究科准教授※
委 員	鈴木 三郎	神戸大学名誉教授※
〃	松 本 宏 之	海上保安大学校教授※
〃	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	中 島 敏 行	大阪湾水先区水先人会副会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	國 友 雄 二	(株)商船三井関西支店副支店長※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
関係官公庁	犬 藤 学	第五管区海上保安本部交通部長 (代 坂中 裕司 安全課長) (同席 吉本 秀幸 安全課専門官 戸川 義徳 海務第二係長)
〃	八 木 博 志	大阪海上保安監部長 (代 勝部 光人 航行安全課長)
〃	宮 本 勝 通	堺海上保安署長 (同席 清水 景平 港務係長)
委 託 者	A社	
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	中 村 伸 也	(株)日本海洋科学コンサルタントグループ専務取締役
〃	高 橋 浩 子	〃 神戸支店主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント

会 務 報 告

第19回 業務運営会議

- 1 日 時 平成26年4月23日(水)12:00～12:45
- 2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室
- 3 出席者 (順不同・敬称略)
- | | | |
|--------|-------|---------------------------------------|
| 代表理事 | 福間和之 | (公社)神戸海難防止研究会会長 |
| 〃 | 赤岡隆夫 | 内海水先区水先人会名誉会員 |
| 業務執行理事 | 世良邦夫 | (公社)神戸海難防止研究会 専務理事 |
| 〃 | 山本幸典 | 〃 常務理事 |
| 構成員 | 鈴木三郎 | 神戸大学名誉教授 |
| 〃 | 山田登 | 内海水先区水先人会会長 |
| 〃 | 根本正昭 | (株)商船三井執行役員
(代 國友 雄二 関西支店副支店長) |
| 〃 | 村井五郎 | 大阪湾水先区水先人会会長 |
| 〃 | 小島茂 | (一社)日本船長協会会長
(代 今西 邦彦 技術顧問) |
| 〃 | 佐々木真己 | 川崎汽船(株)取締役専務執行役員
(代 松島 豊 関西支店副支店長) |
| 〃 | 酒井隆司 | 日本郵船(株)関西支店長
(代 迫田 孝広 関西支店長代理) |
| 〃 | 改発康一 | 神鋼物流(株)顧問 |
| 事務局 | 板坂茂良 | (公社)神戸海難防止研究会総務部長 |
| 〃 | 宮島照仁 | 〃 事業部長 |
| 〃 | 中谷和人 | 〃 事業部長補佐 |

4 議題

- (1) 業務報告等について
(2) その他

5 資料

席上配布

資料 業務報告等

6 議事概要

事務局から、出席者の確認後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。
事務局から資料について説明があり、議題については特に意見はなかった。

以上

第20回 業務運営会議

- 1 日 時 平成26年5月21日(水) 12:00~12:45
- 2 場 所 商船三井ビル 4F 会議室
- 3 出席者 (順不同・敬称略)
- | | | |
|--------|-------|---------------------------------------|
| 代表理事 | 福間和之 | (公社)神戸海難防止研究会会長 |
| 〃 | 赤岡隆夫 | 内海水先区水先人会名誉会員 |
| 業務執行理事 | 世良邦夫 | (公社)神戸海難防止研究会 専務理事 |
| 〃 | 山本幸典 | 〃 常務理事 |
| 構成員 | 鈴木三郎 | 神戸大学名誉教授 |
| 〃 | 山田登 | 内海水先区水先人会会長 |
| 〃 | 根本正昭 | (株)商船三井執行役員
(代 國友 雄二 関西支店副支店長) |
| 〃 | 村井五郎 | 大阪湾水先区水先人会会長 |
| 〃 | 小島茂 | (一社)日本船長協会会長
(代 今西 邦彦 技術顧問) |
| 〃 | 佐々木真己 | 川崎汽船(株)取締役専務執行役員
(代 松島 豊 関西支店副支店長) |
| 〃 | 酒井隆司 | 日本郵船(株)関西支店長
(代 迫田 孝広 関西支店長代理) |
| 〃 | 改発康一 | 神鋼物流(株)顧問 |
| 事務局 | 板坂茂良 | (公社)神戸海難防止研究会総務部長 |
| 〃 | 宮島照仁 | 〃 事業部長 |
| 〃 | 中谷和人 | 〃 事業部長補佐 |

4 議 題

- (1) 業務報告等について
- (2) その他

5 資 料

席上配布

資料 業務報告等

6 議事概要

事務局から、出席者の確認後、福間会長の挨拶があり、引き続き議事に入った。
事務局から資料について説明があり、議題については特に意見はなかった。

以 上

公益社団法人 神戸海難防止研究会
第7回 理事会議事録

- 1 日 時 平成26年5月30日(金) 13時25分から
14時40分までの間
- 2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号
神戸メリケンパークオリエンタルホテル4階渚の間
- 3 理事数 20名
出席理事 13名
福間和之 赤岡隆夫 鈴木三郎
山田登 世良邦夫 山本幸典
高岡信男 小田啓二 村井五郎
大東洋治 児玉正浩 村岡博
南一郎
- 4 監事数 3名
出席監事 3名
八木武人 改発康一 山本亨
- 5 議 案
第1号議案 平成25年度事業報告及び決算について
第2号議案 入会申込みの承認について
第3号議案 第3回通常総会の開催について
第4号議案 役員(理事・監事)の選・解任について
第5号議案 その他

6 議事の経過概要及びその結果

13時25分に開会、事務局から本日の出席理事は13名で、理事総数20名の過半数を超えており、定款第42条の規定により本理事会が成立する旨報告した。

定款第41条の規定に基づき福間会長が議長となり、挨拶を行い、本日の議事録の署名に関して定款第45条に基づき、福間議長と代表理事の赤岡隆夫氏、出席監事の八木武人氏、改発康一氏及び山本亨氏にお願いして議事の審議に入った。

○ 第1号議案 平成25年度事業報告及び決算について

事務局から平成25年度事業報告及び決算について、配布資料に基づいて説明を行った。

次いで、山本監事が平成26年4月17日に監査を実施した結果、財産、会計及び業務の執行状況について、適正、正確であった旨の監査報告を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第2号議案 入会申込みの承認について

事務局から入会希望者について説明するとともに、本会への入会は、定款第8条第1項に基づき、理事会において入会の可否を決定する必要がある旨説明を行った。

議長は、質疑の有無を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第3号議案 第3回通常総会の開催について

事務局から配布資料に基づき説明を行った後、議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第4号議案 役員を選解任について

理事及び監事の任期満了に伴い、退任理事8名に対し、6名の候補者を選任すること、及び重任理事12名及び重任監事3名を選任することを事務局から配布資料に基づいて説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第5号議案 その他

以上で、提出された議案についての審議は終了したので、その他何かないか諮ったところ、特に質疑はなかった。また、事務局からの連絡事項等もなかった。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、14時40分に閉会した。

平成26年5月30日

代表理事
議長 福 間 和 之

代表理事
副会長 赤 岡 隆 夫

出席監事 八 木 武 人

出席監事 改 発 康 一

出席監事 山 本 亨

公益社団法人 神戸海難防止研究会
第3回 通常総会議事録

- 1 日 時 平成26年6月25日(水) 15時00分から
16時05分までの間
- 2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
4階瑞天東の間
- 3 正会員総数 117名
- 4 出席正会員数 100名
うち、出席者42名、書面表決賛成者42名、表決委任者16名
- 5 出席理事 12名
福間和之 鈴木三郎 山田登
村井五郎 世良邦夫 山本幸典
引間俊雄 高岡信男 赤岡隆夫
大東洋治 村岡博 小島茂
- 6 出席監事 3名
八木武人 改発康一 山本亨
- 7 議 案
第1号議案 平成25年度事業報告及び決算について
第2号議案 役員(理事・監事)の選解任について
第3号議案 名誉会員の推薦について
第4号議案 その他
- 8 議事の経過概要及びその結果
15時00分に開会
事務局から本日の出席正会員は100名であり、正会員総数117名の過半数を超えているので、定款第21条の規定により本総会が成立する旨の報告があった。
次いで、総会の開会にあたり福間会長から挨拶が行われた。
事務局は、定款第19条の規定に従い議長の選任を議場に諮った結果、福間会長が選ばれて議長になった。
議長は、議事録署名人について議場に諮り、出席会員の中から山本幸典、改発康一の両氏を選任し、議案の審議に入った。

○ 第1号議案 平成25年度事業報告及び決算について

事務局から平成25年度事業報告及び決算について、配布資料に基づいて説明を行った。

次いで、山本監事が平成26年4月17日に監査を実施した結果、財産、会計及び業務の執行状況について、適正、正確であった旨の監査報告を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席会員全員なんら異議なくこれを承認したから、可決した。

○ 第2号議案 役員（理事・監事）の選・解任について

事務局から現在就任中の役員、監事の任期は、平成26年度の通常総会までとなり、本日開催のこの総会の議決によって選任される旨の説明後、配布資料に基づいて退任理事、新任理事、重任理事並びに重任監事について説明を行うとともに役員の任期は、定款第32条の規定により理事は2年以内、また監事は4年以内の通常総会までとなっている旨説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席会員全員なんら異議なくこれを承認したから、可決した。

○ 第3号議案 名誉会員の推薦について

事務局から本日退任する福間会長を名誉会員に推薦したい旨の説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席会員全員なんら異議なくこれを承認したから、可決した。

○ 第4号議案 その他

以上で、提出された議案についての審議はすべて終了したので、その他何かないか諮ったところ、特に質疑はなかった。また、事務局からの連絡事項等もなかった。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、16時05分に閉会した。

平成26年6月25日

議 長 福 間 和 之

議事録署名人 山 本 幸 典

議事録署名人 改 発 康 一



総会時風景

公益社団法人 神戸海難防止研究会
第8回 理事会議事録

- 1 日 時 平成26年6月25日(水) 16時10分から
16時30分までの間
- 2 場 所 神戸市中央区波止場町5番6号
神戸メリケンパークオリエンタルホテル
4階瑞天東の間
- 3 理事数 18名
出席理事 14名
- | | | |
|------|------|------|
| 赤岡隆夫 | 鈴木三郎 | 村井五郎 |
| 山田登 | 稲岡俊一 | 山本幸典 |
| 高岡信男 | 林祐司 | 引間俊雄 |
| 大東洋治 | 稲村栄一 | 村岡博 |
| 丹田光紀 | 小島茂 | |
- 4 監事数 3名
出席監事 3名
- | | | |
|------|------|-----|
| 八木武人 | 改発康一 | 山本亨 |
|------|------|-----|
- 5 議 案
- | | |
|-------|------------------------|
| 第1号議案 | 代表理事、業務執行理事等の選定・解職について |
| 第2号議案 | 会長職務代行順序の指名について |
| 第3号議案 | 業務運営会議構成員の委嘱について |
| 第4号議案 | 常勤役員等の退職慰労金について |
| 第5号議案 | その他 |

6 議事の経過概要及びその結果

16時10分に開会、事務局から本日の出席理事は14名で、理事総数18名の過半数を超えており、定款第42条の規定により本理事会が成立する旨報告した。

事務局が議長の選任について、理事会運営規程第6条第2項の後段の規定に基づき、議場に諮ったところ赤岡代表理事が議長に選任され、本日の議事録の署名に関して定款第45条に基づき、赤岡代表理事と出席監事の八木 武人氏、改発 康一氏及び山本 亨氏にお願いして議事の審議に入った。

○ 第1号議案 代表理事、業務執行理事等の選定・解職について

事務局から配布資料により、第3回総会において、理事の選解任が了承されたことから、定款第27条に基づき、代表理事及び業務執行理事等について、説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第2号議案 会長職務代行順位の指名について

事務局から配付資料に基づいて、「理事の職務規則」第8条第2号に規定する会長の職務を代行する順位の指名について、説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第3号議案 業務運営会議構成員の委嘱について

事務局から業務運営会議構成員の構成員4名が退任すること、及び代表理事及び業務執行理事の変更があったので、業務運営会議規程第3条第2項に基づき、後任の構成員等として業務運営会議構成員名簿（案）により委嘱することの同意を求めたい旨説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第4号議案 常勤役員等の退職慰労金について

事務局から退職する福間前会長及び世良前専務理事に「役員等の報酬等及び費用に関する規則」第5条第3項に基づき退職慰労金を支給する案件の説明を行った。

議長は、質疑の有無と議案の可否を議場に諮ったところ、出席理事全員一致でこれを承認したから、可決した。

○ 第5号議案 その他

以上で提出された議案についての審議は終了したので、その他何にかないか諮ったところ、特に質疑はなかった。また、事務局からの連絡事項等もなかった。

以上で、議長は、本日の議案審議の全部が終了した旨を告げ、16時30分に閉会した。

平成26年6月25日

議長 赤岡隆夫
代表理事

出席監事 八木武人

出席監事 改発康一

出席監事 山本 亨

○ 事務日誌抄

(H26. 4. 1～H26. 6. 30)

月日	曜日	時間	委員会名	実施場所
4. 2	(水)	1300	阪神港(神戸区)大型客船入出港に関する安全性	(株)日本海洋科学本社
～3	(木)	1300	の検証委員会ビジュアル式操船シミュレータ実験	
4. 8	(火)	1300	平成26年度第1回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
4. 8	(火)	1830	LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る 航行安全対策調査委員会棧橋現地調査	堺
4. 21	(月)	0900	LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る	(株)日本海洋科学本社
～22	(火)	1700	航行安全対策調査委員会ビジュアル式操船 シミュレータ実験	
4. 23	(水)	1200	第19回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
4. 24	(木)	1500	第19回月例会	こうべまちづくり会館
5. 9	(金)	1230	役員候補者評価委員会	神戸海難防止研究会会議室
5. 13	(火)	1300	平成26年度第2回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
5. 21	(水)	1200	第20回業務運営会議	商船三井ビル4F会議室
5. 22	(木)	1330	平成26年度近畿・四国地方海難防止強調運動 推進連絡会議	神戸第2地方合同庁舎
5. 26	(月)	1500	第20回月例会	こうべまちづくり会館
5. 30	(金)	1330	第7回理事会	メリケンパークオリエンタルホテル
6. 2	(月)	1330	阪神港(神戸区)大型客船入出港に関する安全 性の検証第2回委員会	神戸市役所1号館会議室
6. 10	(火)	1300	平成26年度第3回船積危険品研究委員会	商船三井ビル4F会議室
6. 17	(火)	1330	LNG船受入船型拡大及び着離棧基準に係る 航行安全対策調査委員会第3回検討部会	メリケンパークオリエンタルホテル
6. 25	(水)	1500	第3回通常総会	メリケンパークオリエンタルホテル
6. 25	(水)	1610	第8回理事会	メリケンパークオリエンタルホテル

○ お 知 ら せ

平成26年3月12日（水）に開催されました、「阪神港（神戸区）大型客船入出港に関する安全性の検証」の第1回委員会議事概要が、（公社）神戸海難防止研究会 発刊の会報（第8号）から落丁してしまいましたので、お詫び申し上げますとともに、次頁に掲載させていただきました。

阪神港（神戸区）大型客船入出港に関する安全性の検証
第1回委員会

1 日 時 平成26年3月12日(水) 14:00～16:00

2 場 所 神戸市役所 1号館 21階 第1会議室

3 出席者 別紙のとおり

4 議 題

- (1) 調査方針等について
- (2) サン・プリンセスの概要について
- (3) 航行環境等について
- (4) 操船シミュレータ実験実施方案について

5 資 料

- (1) 検討資料委1-1 調査方針等（案）
- (2) 検討資料委1-2 サン・プリンセスの概要（案）
- (3) 検討資料委1-3 航行環境等（案）
- (4) 検討資料委1-4 操船シミュレータ実験実施方案（案）
- (5) 参考資料1 飛鳥Ⅱの航行安全対策

席上配布資料

- (1) 席上配布-1 席上配布-1 検討資料委1-4 P11 差替え
- (2) 席上配布-2 検討資料委1-2 P1 差替え

6 議 事

事務局により出席者、資料の確認後、委員長の選任が行われ鈴木 三郎委員が委員長に選任された。

委託者、吉井 真 神戸市みなと総局技術部長から挨拶が行われた後、委員長により議事が進められた。

7 審 議 結 果

提示された検討資料は、委員会において出た意見、指摘等を盛り込み、一部文言の修正することを前提に了承された。

以 上

別 紙

出 席 者 名 簿

(順不同・敬称略)

※海防研常任委員

委 員 長	鈴 木 三 郎	神戸大学名誉教授※
委 員	村 井 五 郎	大阪湾水先区水先人会会長※
〃	今 西 邦 彦	(一社)日本船長協会技術顧問※
〃	迫 田 孝 広	日本郵船(株)関西支店支店長代理※
〃	松 島 豊	川崎汽船(株)関西支店副支店長※
〃	村 岡 博	三菱重工業(株)神戸艦船工作部船渠長※
関係官公庁	森 部 賢 治	第五管区海上保安本部交通部長 (同席 戸川 義徳 海務第二係長)
〃	中 村 清	神戸海上保安部長 (代 坂中 裕司 航行安全課長) (同席 加藤 一也 航行安全課専門官)
〃	成 瀬 英 治	近畿地方整備局港湾空港部長 (代 中島 靖 神戸港湾事務所長) (同席 小西 孝治 海岸保全係長)
委 託 者	吉 井 真	神戸市みなと総局 技術部長
〃	田 中 誠 夫	〃 技術部 計画課長
〃	胡 重 静 希	〃 技術部 計画課 計画担当係長
〃	小 林 弘 幸	〃 みなと振興部 海務課長
〃	村 井 宏 一	〃 みなと振興部 海務課 港務係長
〃	岩 尾 幸 一	〃 みなと振興部 振興課 振興担当係長
事 務 局	山 本 幸 典	(公社)神戸海難防止研究会常務理事
〃	宮 島 照 仁	〃 事業部長
〃	藤 原 昇	〃 事業部長補佐
〃	原 大 地	(株)日本海洋科学神戸支店長 コンサルタントグループ部長
〃	久 下 剛 也	〃 神戸支店 主任コンサルタント
〃	平 田 裕 一	〃 〃 コンサルタント